

成果の説明書

(氏名) 井手拓郎	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 研究活動</p> <p>日本学術振興会の科学研究費「基盤研究 C」(研究代表者)採択課題に関する研究として、日本の 47 都道府県を対象とした質問紙調査を行った。その結果をまとめ、日本観光研究学会の学術誌『観光研究』Vol.33 特集号に投稿を行い、査読付き論文として採択された。論文題名は「観光地域づくり人材育成の現状と課題—都道府県庁の取り組み把握を通して—」(単著)である。本論文は、第 36 回日本観光研究学会全国大会での発表義務付であったため、2021 年 12 月 4 日に発表も行った。</p> <p>また、上記のほかに夏季及び冬季に採択課題に関する調査出張を行う予定であったが、同時期に COVID-19 の感染拡大が顕著となり、調査出張を見送った。</p> <p>さらに、国内学会誌から査読依頼があり、1 本の論文査読を行った。</p> <p>(2) 教育活動</p> <p>観光産業論・観光まちづくり論・アーバンツーリズムという 3 つの講義を担当した。本年度が上記科目担当 2 年目であったため、前年度の状況を踏まえてそれぞれ改善を行った。具体的には、講義内容のより一層の充実から、投影するスライド資料の見やすさの改善、要点をまとめたレジュメの作成・配布などを行った。また、COVID-19 流行に伴う授業配慮学生への同時配信についても、対面講義と遜色のないよう、配信準備から講義実施まで細心の注意を払った。大きなトラブルなく、各講義、着実に講義を行うことができた。一方で、COVID-19 感染防止の観点から、履修者同士及び学生と教員の意見交換やグループワークについては、あまり活発に行うことができなかった。できたとしても、積極的に参加した学生は毎回決まった顔ぶれであり、メンバーに偏りがあった。これは今後の課題としたい。</p> <p>初年次ゼミ、グループ研究Ⅱ、基礎演習・演習Ⅰという 4 つの演習を担当した。初年次ゼミは他のクラスと歩調を合わせながら、一方で履修者の学習状況に合わせて臨機応変に演習を進めた。グループ研究Ⅱは、リーダーシップと問題解決をキーワードに、前年度よりも学生との意見交換を中心にして活発な演習を展開できた。基礎演習は、演習Ⅰでの専門的な研究活動に向け、研究姿勢、論文・レポートの書き方、地域調査にあたって必要なビジネスマナーなどを、学生同士の学び合い(輪読、ディスカッション等)によって習得を図った。演習Ⅰは、グループ研究及び産学協働事業に注力した。特に、産学協働事業については、基礎演習履修者も途中から参画する形とし、ゼミナール内において学年を超えた交流を図ることもできた。また、COVID-19 流行下にあっても、感染防止に努めながら産学協働事業のイベントを実施し、いかに工夫して問題解決を行っていくか、履修生は実践面からの学びを得ることもできた。なお、演習Ⅰにおけるグループ研究については、各グループはその研究成果を第 3 回飛騨高山学会(主催:一般財団法人飛騨高山大学連携センター)にて発表した。</p> <p>(3) 社会活動</p> <p>前述の通り、ゼミナール活動(基礎演習・演習Ⅰ)の一環で、産学協働事業を行った。具体的には、東日本旅客鉄道株式会社高崎支社及び同・前橋駅と協働で、前橋駅起点の「駅からハイキング」を企画・実施した。大きなトラブルなく実施し、参加者をはじめ関係者から好評を得た。しかし、参加者数が当初の期待よりも少なかったため、集客方法に課題が残った。今後の活動にあたっての強化点としていく。</p>	

2 その他の事項

観光まちづくりにおけるリーダーの発達に関するこれまでの研究をまとめて 2020 年 10 月に出版した『観光まちづくりリーダー論－地域を変革に導く人材の育成に向けて』（法政大学出版局）が、第 14 回（2020 年度）日本観光研究学会学会賞において「観光著作賞（学術）」を受賞した。

3 次年度以降の計画・抱負

（1）研究活動

科学研究費採択課題に関する研究調査の準備を着実にやっていく。COVID-19 流行の状況を踏まえながら、調査対象へのインタビュー調整や、インタビューの実進を進めていきたい。

また、地域科学研究所の「地域リーダープロジェクト」に関する文献探索や調査準備を行う。COVID-19 流行の状況を見ながら、可能な範囲で調査を実施したい。

（2）教育活動

講義科目においては、重要事項で述べた課題（意見交換やグループワークの活発化）に取り組み、履修者の学びがより充実するよう取り組んでいく。また、ゼミナール（演習Ⅱ、演習Ⅰ、基礎演習）において、学内での学習の充実はもちろんのこと、学外団体との連携プロジェクトやグループでの社会調査に取り組んでいく。さらに、履修者各自の卒業論文の執筆を適切に支援していく。

ただし、いずれにおいても、COVID-19 流行の状況に留意しながら、慎重に進めていく。

（3）社会活動

重要事項で述べた協働プロジェクトについて、COVID-19 流行の状況に留意しながら、積極的かつ慎重に進めていく。